



異国の文化に触れる

2/19 国際交流のつどい

国際交流のつどい（安曇野市国際交流協会主催）が2月19日、三郷公民館で行われました。当日は市民など約80人が参加。昨年3月にオーストラリアへホームステイをした中学生による体験発表や、青年海外協力隊に所属し、西アフリカのブルキナファソで活動した川上桂奈さん（三郷中教諭）による発表が行われました。川上さんは自分の足で世界を見てほしいと伝え「文化の違いや多様性を受け入れ、同じ人間として支え合ってほしい」と話しました。



常念校長の業績を学ぶ

2/18 ふるさと常念の里講座

ふるさと常念の里講座「山物語・常念校長 佐藤嘉市」（堀金公民館主催）が2月18日、堀金公民館で行われました。当日は市民など約120人が聴講。大正時代に常念校長として親しまれ、登山道や山小屋の整備を行った堀金尋常高等小学校長の佐藤嘉市さんの業績について、昭和30年代に録音した佐藤さんの肉声を交えた講義と、詩吟・朗読などによる構成吟で学びました。

参加した宮島千里さん（堀金烏川）は「当時の様子や想いが伝わる貴重な地域の財産を知ることができました。このような機会が増えればうれしいです」と話しました。

17 広報 あづみの 2017.3.15

1年間の創作成果を発表

2/7～26 豊科近代美術館 市内中学・高校美術部展

市内中学・高校美術部展が2月7日から26日まで豊科近代美術館で開催されました。この企画展は、平成21年から始まり、生徒主体の作品展となるよう、ポスターやチラシの原画作成、展示などの準備作業に各校の美術部員自らが携わっています。

本年度は、11校の美術部から生徒たちが1年間掛けて描いた水彩画や油彩画など170点が出展されました。このほか館内には、出展者全員が描いた雪の結晶を一本の糸でつないだ合同作品も展示されました。

作品を出展し、2月18日に家族と美術館を訪れた河島穂乃花さん（豊科北中1年）は「自分の作品が展示されてうれしいです。他の人の作品を見て、自分も同じように描いてみたいと思いました」と話しました



高校生 舞台で熱演

2/12 第7回安曇野市高校演劇合同発表会

第7回安曇野市高校演劇合同発表会（実行委員会主催）が2月12日、豊科公民館ホールで行われました。この日は、市内にある豊科、穂高商業、明科の3校と、友情出演として、初参加の大町岳陽高校の演劇部員約50人が、日頃の練習の成果を発表しました。

部員たちは、役者や音響、照明などもすべて自分たちで分担。若者の日常や、将来への思いなどを題材に、初めて部員自ら脚本を書いた作品や二人劇などを熱演しました。

部員がインフルエンザ発症のため、今回出演を見合わせた南安曇農業高校・演劇部長の村松裕さん（2年）は「演劇は、自分ではない役を演じられるのが魅力です。発表できず残念ですが、大会とは違って他校の仲間と交流したり、情報交換できたりするので楽しいです」と話しました。



音楽で防火・防災を呼び掛け

2/19 吹奏楽と消防ラッパのコンサート

市消防団（鳥羽昌弘団長）による「吹奏楽と消防ラッパのコンサート」が2月19日、堀金総合体育館で開催されました。当日は市民など約300人が来場。同団音楽喇叭隊が、子どもから大人まで楽しめる曲目を次々と演奏し、吹奏楽と消防ラッパの共演に大きな拍手が送られていました。また、女性消防隊員が方言を交えて救急救命法などを解説する寸劇なども行われ、日頃からの備えを呼び掛けていました。



豊かな農地の復活を目指して

2/25・26 遊休荒廃農地再生ボランティア作業

「明科地域の農業を守る会」主催による、農地を再生するためのボランティア作業が2月25、26日、明科七貴の天王原地区で行われました。当日は、農業委員や地権者、南安曇農業高校の生徒など約100人が参加。畑に残る木の根などを取り除き、ワイン用ブドウの苗の植栽準備をしました。

同会では、平成25年度から天王原地区の荒廃した桑畑約15㌔をワイン用ブドウの畑として再生しようと、地域と連携し荒廃農地解消に取り組み、本年度、県農業再生協議会などが主催する遊休農地活用功績者表彰で「県農業会議会長賞」を受賞しました。

池上洋助会長は「地域と連携を深め、問題を解決し、新たな安曇野のブランドを創出したい」と話しました。

2017.3.15 広報 あづみの 16